

登録コード	UAA32500	開講年度	2026			
授業題目	日本語学実践演習				担当教員	鈴木 裕也
					副担当	
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	金曜・2 時限	
				授業形態	演習	
信大コンピテンシー	非該当					
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」				【授業の達成目標】	
	2 6 UACリ・総人社・人間文化学, 2 5 UACリ・総人社・人間文化学					
	【人間文化学】思想、歴史、社会、情報、言語、芸術など多種多様な側面を持つ人間文化に関する深い素養と幅広い理解を基盤として、その文化を継承し、柔軟な感性と創造的な論考により専門領域の問題を客観的・学問的に究明し、独自に理論を構築する能力や仮説を検証する能力を有する。				日本語学（日本語史・古代語）の基本的な知識を修得し、文献資料の本文に現れる日本語に疑問を持ち、問いを考察する手法を修得することができるようになる。	
	【人間文化学】人間文化に関する文献・資料を収集・調査し分析・考察する人文学の伝統的な手法を身につけるとともに、他の学問分野の解析手法を併せて修得することによって、複雑多様化する現代社会の課題に柔軟な対応ができる応用力を有する。				文献資料をもとに問題設定をし、調査・考察を行い、その結果を分かりやすく論理的に伝える発表をする手法を修得することができるようになる。	
(2)授業の概要	本授業は、古代日本語の文献を講読し、日本語学（日本語史）の研究手法を実践的に修得することを目的とする。教員による講義と受講者による発表を往還的に行う。和文資料、抄物、悉曇資料・朝鮮資料を講読し、現れる日本語に疑問や関心を持ち考察する演習形式の授業である。受講生は課題論文・文献資料を読み、発表資料を作成する。					
(3)授業計画	第 1 回 ガイダンス、古代語研究の諸問題 第 2 回 和文資料（源氏物語）（講義） 第 3 回 源氏物語の諸本（発表） 第 4 回 源氏物語の論文講読（発表） 第 5 回 源氏物語の本文講読（発表） 第 6 回 抄物（山谷抄）（講義） 第 7 回 抄物の論文講読（発表） 第 8 回 中華若木詩抄の本文講読（発表） 第 9 回 山谷抄の本文講読（発表） 第10回 悉曇資料（梵字悉曇字母并釈義）（講義） 第11回 悉曇蔵の本文講読（発表） 第12回 朝鮮資料（伊路波）（講義） 第13回 捷解新語の本文講読（発表） 第14回 古代語の論文講読（発表） 第15回 古代語の文献講読（発表） 期末試験は実施しない。					
(4)成績評価の方法	各課題発表とディスカッション（全10回、100％）。日本語学（日本語史、古代語）の問題を設定し、適切な手法で考察できるようになったかどうかを評価の基準とする。					
(5)成績評価の基準	日本語学の重要事項を最低限理解し表現できる水準への評価は「可（その水準にある）」 日本語学の重要事項を正確に理解し表現できる水準への評価は「良（やや上にある）」 日本語学の全体を理解し表現できる水準への評価は「優（かなり上にある）」 日本語学の全体を理解し自主的な学習の成果が認められる水準への評価は「秀（卓越している）」 上記に至らないものは「不可」					
(6)事前事後学習の内容	発表者は、あらかじめ論文や文献本文を読み、問題となる点をまとめてから授業に臨むこと。また、文献資料調査を充分に行い、発表までに資料を完成させること。					
(7)履修上の注意	演習であるから遅刻や無断欠席は厳禁である。やむを得ず欠席する場合は必ず事前に連絡すること。 「日本語学実践演習」もあわせて履修することが望ましい。					
(8)質問,相談への対応	随時受け付けるが、口頭またはメールで事前に連絡すること。 メールアドレス yuyasuzuki@shinshu-u.ac.jp					
【教科書】	使用しない。授業内で資料を配布する。					
【参考書】	購入は必須ではない。 木田章義（編）（2013）『国語史を学ぶ人のために』（世界思想社） 築島裕（1964）『国語学』（東京大学出版会） 国語学会（編）（1976）『国語史資料集』（武蔵野書院） 池田亀鑑（1991）『古典学入門』（岩波書店） 京都大学黄氏口義研究会（編）（2024）『抄物を読む』（臨川書店）					